

## ドロップアウトを防ぐための情報共有

学校法人 自立大学( D 班 グループ⑥ )

### ・ テーマ策定の背景

昨今、大学全入時代と言われる中、各大学では AO 入試の導入や入学試験の前倒し実施など、如何にして入学者を確保するかに力を注いでいる。その影響か、入学した学生の学力低下やドロップアウトが目立ち問題となっている。当グループメンバーの大学においても、ドロップアウトが問題視されているといった意見が複数あがったことから、今回はドロップアウトを未然に防ぐための原因と対策を討論することとした。

### ・ ドロップアウトの定義

今回テーマを策定する上で、ドロップアウトの定義を“退学”に限らず、下記のように定義した。

- カリキュラムの理解困難による退学
- 夢や目標の変化による転部・編入
- 単純にやる気のない学生の卒業
- コミュニケーション面で問題をもつ学生の休学・退学
- 経済的な事情による停学・退学

### ・ 原因と対策

ドロップアウトの定義と上記とした上で、それぞれの原因と対策を下記のように考察した。

#### ➤ カリキュラム理解困難による退学

(原因)

- ・ 入試形態の変化による学力の低下
- ・ 教員の指導力低下
- ・ 学生の就学状況に気づけていない
- ・ ゆとり教育による競争意識の低下

(対策)

- 初年度教育の徹底、**学生によるサポート**
- 教員レベルを合わせる
- **履修・出席状況の把握**
- **他学生との情報共有 (お互いの状況共有)**

#### ➤ 夢や目標の変化による転部・編入

(原因)

- ・ 大学内での転学科・コース変更が難
- ・ とりあえず入学してしまった
- ・ 目標のズレを認識できていない

(対策)

- 他大学を含めた情報共有による転学サポート
- **相談窓口による目標設定サポート**
- **他学生(卒業生を含む)の状況把握による目標設定サポート**
- **他学生(卒業生を含む)の状況把握による意思設定サポート**

➤ 単純にやる気のない学生の卒業

(原因)

(対策)

- ・ とりあえず入学してしまっている → 相談窓口による目標設定サポート  
他学生(卒業生を含む)の状況把握による目標設定サポート
- ・ 夢や目標がない → 相談窓口による目標設定サポート  
他学生(卒業生を含む)の状況把握による目標設定サポート
- ・ 理想と現実のギャップを感じてしまう → 相談窓口による目標設定サポート  
他学生(卒業生を含む)の状況把握による目標設定サポート
- ・ サークルに専念してしまう → 履修・出席状況の把握
- ・ 簡単に卒業できてしまう → 出席を必須にする。(但し、病欠サポートは必要)

➤ コミュニケーション面で問題をもつ学生の休学・退学

(原因)

(対策)

- ・ 相談する場所(人)がない → 先輩など学生同士でのサポート
- ・ 教職員が気付いていない → 出席状況の把握、友人情報の把握
- ・ 教員に相談しづらい → 先輩など学生同士でのサポート
- ・ 電子化の多用化 → 相談窓口の設置

➤ 経済的な事情による停学・退学

(原因)

(対策)

- ・ 奨学金情報の不足 → 入学前・入学時での説明会(広報の段階で告知しておく)

この結果、ドロップアウトの各定義に共通する対策として浮き上がってきた「学生の状況把握」「学生による学生のサポート」(赤字部)に重点を置き、具体的な対策を考えることとした。

ただし、既存システムのままではなく、既存システムに対して Check を行い Action を起こしたシステムを考察することを重視することとした。

・ 対策①：学生の状況把握「学生カルテ」

学生カルテとは、学生のデータや状況を登録し、その情報を共有するためのシステムであり、既に様々な大学にて取り入れられている。学生の状況を把握するためには、この「学生カルテ」を導入することが有効であると考えた。

なお、既存の「学生カルテ」への Action として、新たに以下のような特徴を持たせることとした。

- 教職員だけでなく、学生も閲覧可能とする。(ただし、個人情報を除く一部情報のみ)
- 在学生のデータに限らず、卒業生のデータも登録しておき閲覧できるようにする。
- 「夢・目標」「友人」という登録項目を用意する。
- 登録データは、履修登録時などのタイミングで定期的に更新させる。

この「学生カルテ」を用いると、下記のような利点が考えられる。

- ▶ 履修状況や出席状況を見ることで、学生の就学状況を把握し、学生のドロップアウトの可能性を事前に把握することができる。
- ▶ 相談履歴を残すことで、学生がどのような相談を行い、どのようなことで悩んでいるかを教職員間で情報を共有することができる。
- ▶ 他学生のデータを学生が閲覧することで、「同じ目標を持った先輩がどのような授業を履修して、いつ頃資格を取得した。」「過去に同じ悩みをもった他学生が居て、どのような相談をして、どのような解決をした。」などの情報を得ることができ、学生生活を送る上での目標を立てるための意思決定ツールとして用いることができる。
- ▶ 「友人」項目を見ることで、「友人が0人」「一方的な友人感覚」を発見することができ、コミュニケーション問題によるドロップアウトを未然に防ぐための判断材料とすることができる。

なお、この「学生カルテ」の具体的な登録項目を表1に示す。

表1：「学生カルテ」の登録項目

○：閲覧可 ×：閲覧不可

登録項目	概要	閲覧権限	
		学生	教職員
個人情報	氏名・住所・年齢・連絡先など、一般的な個人情報	×	○
学部・学科	学生が所属している（または所属していた）学部・学科	○	○
履修状況	学生の授業の履修状況	○	○
出席状況	履修している授業の出席状況	○	○
夢・目標	学生が何を目指しているか	○	○
資格取得状況	取得している資格と取得時期	○	○
過去の相談履歴	学生が教職員に相談した内容とその回答	○※1	○
性格	性格診断などを用いて診断した学生の性格	×	○
入学種別	推薦や一般、AOなどの入学種別	×	○
就職活動状況	学生の就職活動の状況	○	○
友人情報	学生の友人情報（最大5名）	×	○
ゼミ・サークル	所属しているゼミやサークル	○	○

※1：学生が閲覧可能な情報は個人情報保護の観点から、教職員が内容をチェックし編集した内容のみとする。

・ 対策②：学生による学生のサポート「学生による相談窓口」

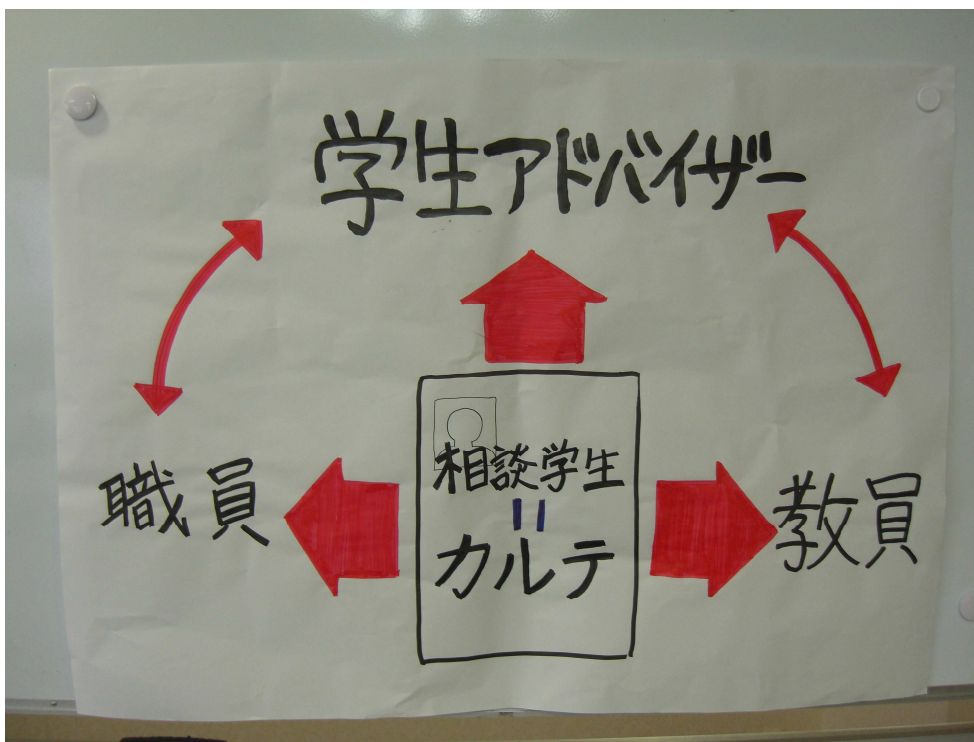
学生が気軽に相談できる場を作るには、学生同士でのコミュニケーションが一番であると私たちは考えた。教員にはなかなか質問できないという学生も、学生同士であれば気軽に相談をすることができる。しかし、この「学生による相談窓口」も既に様々な大学で取り入れられている。

私たちが考えた「学生による相談窓口」の特徴として、以下の点が挙げられる。

- 学生はプロフィールを見ながら、自分に合った学生アドバイザーを選んで相談できる。
- 学生アドバイザーは学生からの相談内容を「学生カルテ」に登録することができる。
- 学生アドバイザーはアルバイトやボランティアではなく、授業の1コマとして採用する。その際、アドバイザーには研修等を行い、授業の単位として認定する。

学生アドバイザーも学生カルテを参照することで、教職員間だけでなく学生も含めた、大学全体での情報共有を図ることが出来る。関連図を、図1に示す。

図1：「学生カルテ」を用いた情報共有関連図



・ 成果発表でのプレゼンテーション

成果発表では、これらの内容を架空の大学「学校法人 自立大学」を設立し実際に運用したという想定のもと、説明会形式のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション資料については、別途添付資料を参照のこと。

・ 今後の課題

- 個人情報に関する取り扱い

「個人情報とは直接／間接を問わず個人を特定できる情報」と定義されており、顔写真等の情報は、個人を特定できてしまう。個人情報の扱いに関しては、グループ内でもディスカッション

ョンが行われたが、時間の関係上、具体的な対策は盛り込むことができなかつたため、導入においてはもう少し討論する必要があると考えられる。

▶ 学生間の相談窓口設置による教職員とのコミュニケーションの減少への対策

学生間の窓口を設けることで、教職員とのコミュニケーションの場が減ってしまい、それによる影響を具体的に討論する必要があると考えられる。ただし、教職員とのコミュニケーションが減ったとしても、ドロップアウトしてしまいそうな学生にとってコミュニケーション増加になるほうが、ドロップアウトを防ぐためには効果的ではないかと考えられる。

・ まとめ

今回のディスカッションでは、「学生カルテ」や「学生による相談窓口」についてディスカッションを進めたが、これらは実際に運用されているシステムである。そこで、その既存のシステムに対して **Check** を行い **Action** を導き出すことを目標とした。そのため、すぐにでも運用に持ち込める対策が考えられたのは、大変有益だったのではないかと思われる。

また、今回は大学内での情報共有に留まったが、このような情報を他大学とも共有することで、より大学運営の可能性を広げることができるのではないかとの意見も上がり、今後それぞれの大学運営において様々な情報の共有の可能性を考えさせられる研修になった。

以上